

事業別活動計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位:円)

科目	事業区分	指定管理 (収益事業)	自主事業 (非営利事業)	事業計	管理 (非営利事業)	合計	
I 経常収益							
1. 受取会費			0	0	141,000	141,000	
2. 受取寄付金		0	0	0	0	0	
3. 受取助成金等		0	7,000,000	7,000,000	0	7,000,000	
4. 事業収益							
自主事業収益		665,321	225,000	890,321		890,321	
受託事業収益		27,916,000		27,916,000		27,916,000	
事業収益計		28,581,321	225,000	28,806,321	0	27,726,908	
5. その他収益		199	0	199	0	199	
経常収益計		28,581,520	7,225,000	35,806,520	141,000	35,947,520	
II 経常費用							
(1) 人件費		23,888,536	1,873,830	25,762,366	37,500	25,799,866	
(2) その他経費		4,127,274	5,064,730	9,192,004	155,225	9,347,229	
経常費用計		28,015,810	6,938,560	34,954,370	192,725	31,147,095	
当期経常増減額		565,710	286,440	852,150	△ 51,725	800,425	
III 経常外収益							
経常外収益計		0	0	0	0	0	
IV 経常外費用							
経常外費用計		0	0	0	0	0	
当期正味財産増減額		565,710	286,440	852,150	△ 51,725	800,425	
						前期繰越正味財産額	14,869,875
						次期繰越正味財産額	15,670,300

※当該年度は、その他の事業は実施していません。

貸借対照表

2023年3月31日現在

科目	金額 (円)	
I 資産の部		
1. 流動資産合計	19,248,791	
資産合計		19,248,791
II 負債の部		
1. 流動負債合計	3,578,491	
負債合計		3,578,491
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	14,869,875	
当期正味財産増減額	800,425	
正味財産合計		15,670,300
負債及び正味財産合計		19,248,791

2022年度の役員構成

理事長：柳瀬 真佐子

副理事長：柳田 康人

理事：片岡 誠（専務理事）、金指 弘、
谷田 成司、花立 都世司、春貴 勇力、
半崎 智恵美、久 隆浩、増田 左知子、
村上 典子

監事：児島 伸幸、長谷川 美津代



ANNUAL REPORT

2022



一年次報告書

■新型コロナウイルスの感染拡大により地域社会では様々な課題が顕在化したが、それらに対応している市民公益活動は、社会活動の低迷により人材や資金の制約を受けて活動が制限された。

しかし、このように困難な状況でテーマを限らず市民公益活動を広く支援する中間支援団体は、市民活動支援センターなどの運営以上の支援ノウハウに乏しく、それを行う人材の不足にも直面している。

■そこで、当年度は、地域の市民公益活動団体の基盤強化を目指した伴走支援とそれを実施する中間支援団体の人材育成を目的に、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の社会福祉振興助成事業の採択を得て、「北摂地域の活動支援の仕組みづくりと支援団体のネットワーク構築事業」を実施した。

■この事業では、2020～21年度実施の「北摂 NPO・SB 支援のための緊急補助金プロジェクト」の枠組みであった北摂5市（池田市、茨木市、高槻市、豊中市、箕面市）の支援センターを運営する中間支援団体との連携を活用し、中間支援団体の人材と支援のためのノウハウの連携を強化することができた。

そして、当法人にとっては人材育成の現場を増やすことができただけでなく、6市の市民公益活動団体向け講座を相互に利用することにより、吹田市立市民公益活動センターでは支援メニューが多様となった。

■2020年度から続く北摂5市の中間支援団体との連携を通じて、当法人は活動エリアを生活圏や課題が似通った北摂エリアに広げることができ、市域を超えた市民公益活動団体の支援が可能になった。また、今後のまちづくりにおける中間支援の役割の問い直しや機能の見直しに着手することになった。

■この間、複数の規模の大きな事業を実施し、採択には至らなかったが複数の指定管理事業へも応募したことによって、事業提案や運営の更なるノウハウを獲得することができた。

当法人はこれまで吹田市立市民公益活動センターの指定管理事業に全面的に依拠していたが、これにより事業基盤を広げ、強化することができた。

NPO法人市民ネットすいた

Civil Network Suita

■ 主な事業展開

● こども食堂北摂ネットワーク

吹田市内のこども食堂を訪問し、設立経緯、活動内容、問題点のヒアリングを行い、ネットワーク形成の下地作りを行った。



● 地域交流サロン等の活動支援を通じた地域情報の収集

吹田市に登録のあるふれあい交流サロンだけでなく、地域で主体的に運営されている地域の交流サロンを訪問し、設立経緯、活動内容のヒアリングを行った。

● 「栄えるカフェ IN 吹田」の運営

JR 吹田駅前のファミリーマート吹田栄通り商店会店のイートインスペースを市民公益活動に関わる団体が活用できるようにコーディネートを行っていたが、コロナ禍によりオンラインでの交流の場を開催した。吹田市内に限らず他市からの参加もあり、コロナ禍で外出しにくい環境で多彩な繋がりを持てる場となった。



● 関西の市民公益活動の中間支援組織との連携

北摂 6 市の中間支援団体が連携し、各市の市民活動センターのセンター長交流会を 2 回開催し、「協働」、「人材育成」、「センター運営」などについて意見交換を行った。

● 団体運営バックヤード支援事業

(公財) 吹田市国際交流協会の団体運営プロジェクトチームに委員を派遣して、団体運営の改善に向けたコンサルティングを行った。

● 行政機関や団体との連携

当法人の理事が多くの自治体や団体の審議委員・評議委員として活動した。

- ・吹田市高齢者生活支援体制整備事業「すいた年輪ネット」委員
- ・芦屋市市民提案型事業補助金アドバイザー
- ・吹田市行政評価委員会アドバイザー
- ・大阪市内 5 区の区役所付設会館（区民センター）指定管理者事業評価委員
- ・大阪市東成区コミュニティ育成事業選定委員会委員長
- ・大阪市東成区地域公園協働パートナー事業選定委員会委員長
- ・大阪市東成区新たな地域コミュニティ支援事業評価委員会委員長
- ・公益財団法人吹田市国際交流協会運営検討ワーキンググループ委員
- ・特定非営利活動法人 JR 吹田駅周辺まちづくり協会監事

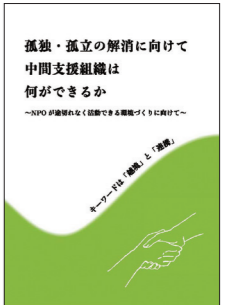
■ 北摂ともにプロジェクト（北摂地域の活動支援の仕組みづくりと支援団体のネットワーク構築事業）

(独法) 福祉医療機構 (WAM) の社会福祉振興助成事業 (通常助成事業) の助成を受け、生活困窮やひきこもり、孤立、虐待、権利侵害などの深刻な生活課題や社会的孤立などの新たな地域福祉課題に対応する市民公益活動団体に対して、途切れなく支

援が継続できる環境づくりを目的に、北摂地域の各市で市民活動センターを運営する6つの中間支援団体が連携し、各センターの機能を活用しながら行政区を超えて伴走支援を行い、多面的・継続的な活動支援を行った。

支援団体は、池田市1団体・

茨木市1団体・吹田市3団体・摂津市1団体 (CNSが担当)・高槻市1団体・豊中市3団体、箕面市2団体の計12団体で、他市の中間支援団体の職員間でチームを組み、1年間団体運営の伴走支援を行った。



▲ 特設サイトにて報告書「孤独・孤立の解消に向けて中間支援組織は何かができるか」を掲載しています。

■ 吹田市立市民公益活動センターの管理運営

指定管理の3期11年目となり、人員体制を刷新して施設の運営に努めた。コロナ禍を経て、3年ぶりの開催となった地域人材養成講座「eN カレッジすいた(第7期)」では、20~90代まで幅広い年代の方に参加いただいた。団体向けの講座としては、「自治会向け LINE 活用講座」を市内4会場にわけて開催し、のべ27名24団体の自治会に対してデ

ジタル化の促進を行うことができた。2回目の開催となった市民参加型イベント「みんなの SUITA DAY」では18団体が参加され、プレイスメイキングの観点を取り入れ、南千里駅前まるたす広場の活用に取り組んだ。また、5年に一度の「市民公益活動団体実態調査」を実施し、経年変化だけでなく、コロナ禍による影響や、ICT の活用実態



等について把握し、団体運営の課題を取りまとめた。

行政との連携・協働の取り組みとして、市民公益活動団体を対象とした総合計画見直しに向けたワークショップを協働で取り組んだ。